

じんかん う
人間に生まれて “つながりを生きよう” 298



「白い道」は私たちが人として生きていく道

五月四日五日、坊守が得度式を受式させていただきました。

得度とは、真宗大谷派僧籍を取得し、仏弟子・僧侶とならせってもらうことです。高岡教区の教務所で得度考査(三月二十五日)に合格し真宗本廟(京都・東本願寺)において、得度式を受けてきました。こちらから少しずつ学び、真敬寺に貢献できるよう努力いたしました。くおもいます、どうかよろしくお願いたします。

春より真敬寺では朝五時に鐘をつき、五時十五分から約一時間勤行聖典読誦をしております。最近では五時でもはや日が出て、さすがに暑い時間です。

お仕事が始まる前にお参り来られてはいかがでしょうか？

本堂の扉を開けてお待ち申しあげております。ご一緒にお勤めしましょう。

十七日の定例聞法会では、富山の石川正穂さんが観経の中から二河白道(にがびやくどう)の話をして下さいました、煩惱にまみれながらも、危うい道を進む我々の姿を、わかりやすく紙芝居やDVDを通して丁寧にお話下さいました。

お話は下記のQRコードから見れます。



6月真敬寺行事予定

5日(日)	真宗教室	午後2時
6日(月)	正信偈の会	午後2時
12日(日)	日曜学校	午前9時
13日(月)	門信徒追悼会	午前9時半
	祠堂経会	午前 午後
14(火)	〃	午前 午後
	法話	瓜生崇さん
19日(日)	日曜学校	午前9時

どこからか声が聞こえてきました。白い道を進みなさい、心を決めてまっすぐに進みなさい。白い道の途中には見覚えのある方が立っています。それは親鸞さまでした。この白い道を進んでいこう。いや、恐れることはありません、私と一緒にいきましょう。定例法話より(紙芝居、親鸞さまと白い道)

定例聞法会の聞書

富山市水橋玉永寺住職

石川正穂さん



私たちは、先のことを考えたら、辛くて苦しくなり、眠れなくなる時がある、そのような四苦八苦の煩惱に常に日頃追いかけてられて生きています。そのうち、此の人のように道を見いだすことにはなるのだけれども、進む方向には、怒りと欲望を見て、その道は本当

に狭い道で、危うい道です。

安全で確実な太い道なら歩もうと思うかもしれない、だけれどもそんな簡単な道は無いのだと思います。人生を歩んでいくときには、常に煩惱にさいなまれながら、生きざるを得ないので。火と水、怒りと欲望に浸食されて細い道を歩むだけだと思います。

韋提希夫人に対して「汝は凡夫なり」とお釈迦さまに言われた方です。それはどう考えても身分は立派な人だけれども、心の中身は普通の人、修行をしているわけでも無く、毎日毎日質素な暮らしをして、何か正しいことをやって、人に嘘をつかずに生きれる人ではない事をお釈迦さまに見抜かれたのです、だから「汝は凡夫」と言い当てられたのです。

親鸞聖人は「私は煩惱成就の凡夫です」といわれたのです、それは謙遜で言われたのではないと思います、親鸞聖人の実感として「私も凡夫です」と仰ったのではないかと思います。

だけれども凡夫でも歩める道がある事を、「白い道」で明らかにされてこられたのではないでしょう。常に怒りと欲望にまみれた道を歩もうとされたのが親鸞聖人ではなかったかと思えます。

私たちの道はきれいな道では無けれど、煩惱に常日頃から悩まされながら、それでも歩いて行く道だと思えます。

その道を歩いた方がもうすでにいらつしゃたのですね、それが親鸞聖人です。さらに親鸞聖人は私たちのことを「御同朋御同行」と

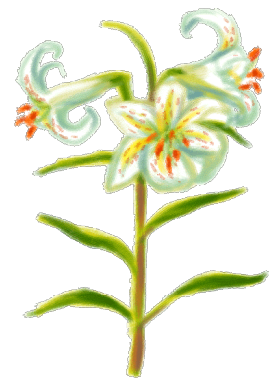
仰って下さいました。親鸞聖人は私たち門徒のことを「同じ友だちであり、おなじ道を行く人である」といつて下さいました。

日本にはいろんな宗教がありますが、親鸞聖人は「私こそは煩惱成就の凡夫です」とおっしゃったから、私のような立派な人間、社会に認められるような人間には成れない者、無名な者が歩める道を見いだして、「私のような凡夫がこの道を歩めるようなら、皆さん方がおなじ道を歩めないはずがない」と仰ったのが親鸞聖人です。

だから沢山の方々が親鸞聖人のあとにつづいて、この道を渡っているのだと思います。

お念仏を称えながら、煩惱に苦しみながら、悩みながら、泣

きながら、怒りながらあゆんでいる道がこの「白い道」だと思います。



江戸時代のある学僧と門徒さんとの会話で

僧「君の煩惱をもらえないか、いろんな苦しみを抱えているだろうからその悩みの一つを私に出来ないか」と問い

門「煩惱ならいっぱいあります、だけど私はこの煩惱があるから、この阿弥陀如来に見つけてもらったのです。罪悪深重の悪人をこそ救うという阿弥陀様に出会えたのは私の煩惱があるからなのです、先生にさし上げたら私は救われなく

なります先生にはあげられませんか」

僧「煩惱が貰えないのなら、君の罪業を貰えないだろうか、君もいろいろと悪いことをして罪を重ねてきたであろう、その業を私に貰えないだろうか」

門「そうですね、罪業深重の罪を抱えてこれからも生きて行かなければならない身ではあります、このわたしの罪悪深重の凡夫の罪業はすべて阿弥陀様に捧げてしまいました、ですから私には罪業はありません、さし上げるわけにはいきません」

昔の浄土真宗の学僧と門徒さんとの会話だったそうです。すごい会話だと思いませんか？

最近の宗教の勧誘でよく使われる言葉としまして「業」(ごうカルマ)とか言われます、「あなたは生まれながらに罪業がありますそれを消す方法がありますよ、この壺を買えば、この数珠を買えば消えますよ、地獄に落ちないですよ」と勧誘されます、本当にあるのです。

私たちは違います、私たちにもいろいろな煩惱、罪業はありますけれども、親鸞聖人と同じように、煩惱を抱えて、煩惱の中を歩いているのです。そうした者の罪業はちゃんと阿弥陀様が引き受けて下さる、これがお念仏の教えだと思えます。

観無量寿経からこの二河譬のことを善導が解いて下さいました、ここ宮地さんのところも厳しい現状ではありますが、私自身も自坊近くで法話会を月に何回もやって、どうやったら皆さんに話を聞いてもらえるだろうかと工夫しています。今日はありがとうございました。

先月の行事

- 五月 五日(木) 花まつり灌仏会 願全寺
- 五月 九日(月) 正信偈の会
- 五月 十七日(火) 定例聞法会
- 五月二十九日(日) 日曜学校

得度式は前日に説明会があり、当日は朝八時から受付、式は九時から御影堂で行われ、十一時まででありました。終わってから付添、参詣者の皆さんと正信偈のお勤めをしました。後日、証書と記念写真が送られてきました。



五月の始めに、もっと早い時期の行わなければいけないなかつたのですが、山の杉の木、枝打ちをしまして、昨年からの気になつていたので、冬から準備をすすめてやつと作業が出来ました。写真は住職



発行 〒939-1664富山県南砺市竹内440

真宗大谷派(東) 小塚山真敬寺 宮地修

0763-52-0196 携帯電話090-3760-5692



ホームページを開設しました